

# 校長だより

校長 淀 廣治

## 保護者の皆様へ

今年最後の個人懇談が終わりました。いかがでしたでしょうか。子供はなかなか親の思うようには育ってくれませんね。保護者の方々のご両親も同じことを思っていたのかもしれませんが。私の教え子の方で、お子さんを本校に通わせて下さっているお母さんのご両親も、当時の面談の時には勉強のことで悩まれていたこともありました。勉強は子育てのほんの一部です。私の目から見ると、生徒達は4月から比べるとずいぶん成長したと思います。学生の間は数値で表される**学力が必要以上に重視**されていますが、**人の価値**はもっと深く大きなところにあると思います。特に人としての根源をなす「心の成長」が一番大切だと思います。

子供の一年間の成長を振り返り、学力だけではなく、**人として成長**したことを褒めてあげてくださいね。子供を成長させるには叱ることよりも**褒める**ことの方が**何倍も効果**があります。懇談では**7割褒めて3割叱る**程度の割合がいいのではないかと思います。先生は注意が多くなってしまいう傾向があります。生徒にとっては保護者の皆様と担任が**信頼関係**の上に成り立った**バランス**の取れた指導やアドバイスが大切だと思います。子供が今年の成長を自分で実感できて、来年に向かって**頑張ろう**と思えるようになればいいですね。生徒達は体育会・文化祭・耐寒OLなどの行事や早朝テストや講習などの勉強にも本当に良く頑張ったと思いますよ。ただ、期末考査の結果につながったかどうかは分かりませんが、頑張った分だけ確実に人間として成長しています。頑張れる能力が身についたと言うことです。

## 先生たちは今

**個人懇談前**の先生たちは、個人懇談でどのように話をしてあげれば1番効果があるのかなど、生徒の性格などを考えながらシミュレーションしていました。

夏休みを上手く計画通り過ごせた生徒なのか、2学期の学習は、生活はどうだったのかをチェックしながら冬休みの過ごし方のアドバイスなどを考えていました。

**個人懇談が終わった**先生たちはほっと一息ついていています。先生は懇談で多くのことを学びます、先生も日々成長しています。スキー研修の引率の先生は準備をしています。

**6年一貫コース**の先生も学力定着に向けての冬期講習の準備に余念がありません。また修学旅行や卒業論文の準備などで忙しくしています。

**3学年の先生方**は1人1人に合った一番良い高校をアドバイスしてきましたが、いよいよ最終決定の時期です。この時期にしっかりと目標を定めて猛勉強させる必要があるので大変です。

高校進学に向けての冬期講習の準備や受験校への教育相談資料の作成など最後の追い込みをしています。

**新年に向けて**中学入試の準備や社会見学の下見など忙しいですが、私からは先生方に「ゆっくりと休暇を楽しんでください」と言っています。

先生たちは新年を生徒が新たな気持ちで夢と目標を持ってスタートが切れるように頑張っています。

す。

## 冬休みの過ごし方

詳しい内容は懇談時にプリントで、生徒達には終業式に生活指導の先生から話があります。私の方からは一学期末にお願いをしました内容をもう一度確認したいと思います。人は失敗するごとに成長していきます。夏休みの失敗を生かせることが大切だと思います。

◎冬休みを**充実**したものにするためにしっかり**計画**をたてる必要があります。目標を作り確実に実行できる能力を身につけてください。当然、遊びなどを我慢できる強い意志と心を育てる必要があります。

◎**基本的な生活習慣**が出来ているか。(明るい挨拶・靴を揃える・良い言葉づかい)

特にクリスマスやお正月など近所の方や親戚などと接する機会も多くなります。現代では基本的な生活習慣が出来ているだけで高く評価されます。人は評価されると自信がつき、さらに良くな

っていきます。正のスパイラルに入って行くという事です。

〇〇さんの□□ちゃんは礼儀正しい素晴らしい中学生に成長された。⇒認められた子供自身も親もさらに素晴らしくなっていきます。

◎**家の手伝い**をしているか⇒褒める材料を作り、**褒める**⇒信頼と絆を深め、やる気を引き出す。12月は師走と言って大掃除など家庭でも忙しい時期です。是非お子様を信頼して頼ってみてください。人は信頼され頼られると嬉しくなり全ての事にやる気が出てきます。

ご家庭でもお子さんの冬休みの過ごし方の確認をお願いいたします。

**決して注意したり、叱ったりするためではありません。**

冬休みは外出や携帯電話の使用方法を特に注意していただきたいと思います。お願いいたします。

## お正月

年末年始の日本の風習『大晦日・年越しそば・除夜の鐘・門松・鏡餅・しめ飾り・おせち料理・祝箸・七草粥・振袖・干支』については昨年も書きましたが、今年も少しだけ書きます。  
(HPの校長だよりにのっています)

年末に大掃除をする家庭が少なくなってきましたが、お宅ではどうでしょうか。

日頃からきれいにされているご家庭が多いようですが、日常の掃除以外の場所にも目を向けてください。子供達には心の掃除の話を昨年に引き続いて再度したいと思っています。ご家庭でもご協力していただければありがたいです。

**心の掃除** 人の心も家や学校と同じで、知らず知らずのうちに**心に垢(あか)やほこり**がたまってしまいます。皆さんは毎日、顔や体を洗いますね。心は洗っていますか。心も洗わないと垢やほこりで汚くなってしまいます。

人をねたむ心・意地悪な心・さげすむ心・自己中心的な心など、ほっておくと心に汚れがこびりついて、元々のきれいな心から汚れが取れなくなってしまいます。

人の悪口を平気で言うてしまう卑しい人になってしまいます。

**心の汚れは何で取るか**知っていますか。「**感謝の心**」「**思いやりの心**」「**人を褒める心**」を持つことで心の汚れはきれいになっていきます。

日頃から心の掃除をしている人も、除夜の鐘を聴きながら、しっかりと自分を見つめ直し、心の掃除をしてください。私は人は生まれた時よりも美しい心になって死んでいくべきだと思っています。ダイヤモンドの原石も磨かなければ輝きません。心も掃除をして磨き上げて下さい。

来年の**干支(えと)の話** 来年の干支は何か知っていますか。 そうです  です。

古代中国では植物の成長を12段階に分けました。それを多くの国民にわかりやすくするために、それぞれに合った動物を当てはめていったそうです。

例えば寅は植物の芽が地面から出てくる段階を示しますが、その勢いを猛獣の虎で例えました。午は植物が成長しきった段階でを示し、完成した美しさを馬で表現したようです。

十二支 (じゅうにし) 「子 丑 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥」  
(「鼠 牛 虎 兎 竜 蛇 馬 羊 猿 鳥 犬 猪」)  
「ね・うし・とら・う・たつ・み・うま・ひつじ・さる・とり・いぬ・い」

十二支はどうやって決まった？

十二支は「<sup>ねずみ</sup>鼠 <sup>うし</sup>牛 <sup>とら</sup>虎 <sup>うさぎ</sup>兎 <sup>りゅう</sup>竜 <sup>へび</sup>蛇 <sup>うま</sup>馬 <sup>ひつじ</sup>羊 <sup>さる</sup>猿 <sup>とり</sup>鳥 <sup>いぬ</sup>犬 <sup>いのしし</sup>猪」。昔、これらに「猫」を加えた13種類で、かけっこをしました。

【結果】 1着鼠 2着牛 3着虎 4着兎 5着竜 6着蛇 7着馬 8着羊 9着猿 10着鳥 11着犬 12着猪  
失格 猫

この結果、1着の「鼠」から12着の「猪」までが十二支になりました。  
以下、これにまつわる諸説。

「<sup>ねずみ</sup>鼠」は「牛」の頭に乗って休んでおり、「牛」は「自分はずっと歩くのが遅いから」とのことでアドバンテージを得てレース前日から歩き始めた。かなりゴール近くまで「牛」が歩いてきたところで「鼠」が飛び降り、「牛」より先にゴールテープを切って1着になった。

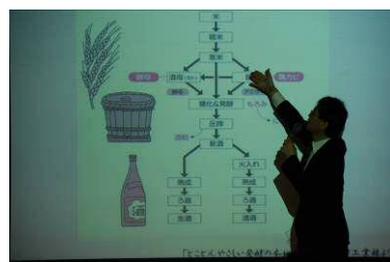
「<sup>いのしし</sup>猪」はとても速いが、ゴールの場所を間違えてしまい、元のコースに戻ってゴールにたどりついたが、遅れの影響が大きく最下位(12着)だった。「猫」は、このレースの日付を間違えていて、失格になった。また、「竜」は想像上の動物だぞ「蛇」ってそんなに速い？「鳥」は飛んだのでは？走りなら犬よりは遅いよね。など、いくつか「？」ですが、おもしろい話ではあります。

## 社会人講座

300年の歴史ある蔵元、久保本家酒造 代表取締役 久保順平先生をお迎えしました。

「酒造りは人づくり」をテーマに「何事も一番大切なことはそれに携わる人間力を高めることである」とお話をいただきました。

私は銀行員から実家の蔵元を継ぐ決心をされた勇氣と心意気に感心しました。酒造業は当時、決して時代の波に乗っている業種ではありませんし、むしろ廃業しているところが多い業種です。私は久保さんの中に謙虚さと徳を兼ね備えた人格者を垣間見ました。生徒達もやる気と努力が人生を切り開いていく唯一の力だと感じてくれたのではないかと思います。



## 人権講演会

12月4日（水）に実施しました。

演題  
講師

「人としてどう生きるか」 ～言葉の大切さを考えよう～

川西 寿美子氏

大阪市立大学大学院を卒業、現在は大阪私立学校人権教育研究会の指導員として、子育て生徒支援やカウンセリングなど幅広く啓発活動をされています。



人間関係の大切さを生徒達にわかりやすくお話していただきました。  
**相手のことを思いやる**

言葉の使い方や情報機器、ラインなどでの歪な友人関係など生徒達に密接したお話でした。川西先生は四條畷学園中学校のことを「非常に素直な生徒さんばかりで話していても楽しかった。素晴らしい学校です」と褒めておられました。

本校では生徒達が幸せになってくれることを願って、心の教育の一環として毎年人権の講演をしています。今回の講演内容は非常に密度の濃い内容をわかりやすく話されていました。生徒達の姿勢・聞く能力・学び取ろうとする意欲によって得られる物の大きさが変わってきます。成長できる**チャンス**をしっかり確保し捕まえられるような生徒に育てたいと思います。お子様が「馬耳東風」にならないようにご家庭でもお話していただければと思います。

**馬耳東風** 意味他人の意見や批評に注意を払わず、聞き流すことのとえ。もとは春風が馬の耳に吹く意。人が心地よいと感じる春風が吹いても、馬は何も感じないように見えることからいう。

昨年は上級カウンセラーの掃部 恵美氏に「いじめって何？」の演題で講演をして頂きました。「いじめ」を見た人、聞いた人が傍観者にならずに、少しの勇気をもって先生や親に通報することです。と話されていました。本校では先生は通報を真摯に捉え、単独ではなくチームで敏速に対応しています。

## 理科公開実験

学園小学校児童対象に6年一貫コースの理科の先生が楽しい理科教室（実験）を行いました。小学校の児童のみなさんが生き生きと楽しそうに実験に参加している様子です。



## 第3回入試説明会

11月16日実施

体育クラブの説明を部員がしてくれました。しっかりした分かりやすい内容とクラブの雰囲気伝えてくれました。勉強との両立を力強く話してくれました。



## 第4回入試説明会

11月30日実施

文化クラブの説明を部員がしてくれました。楽しい雰囲気の中で分かりやすい内容を伝えてくれました。



コースの説明やクラブの説明・行事の説明などを生徒にプレゼンしていただきました。もちろん司会も生徒が行ないました。しっかりした内容と堂々とした態度に来校者の皆様は驚かされていました。大勢の保護者の前で話すことは大変ですが、みんな凄く上手でした。さすがです。

## PTA 研修会

11月19日実施

大塚国際美術館で世界の名画を鑑賞（絵画の解説者付でしたのでよく分かりました）し、ルネッサンスリゾートナルトでバイキングの昼食をとりました。素晴らしい絵画とおいしい食事と絶景を堪能しました。今年行きそびれた1,2年生の保護者の方は是非来年参加してください。



## 耐寒OL

今年も12月5日に実施しました。今年は天候も良く非常にすがすがしい気候の中で行うことができました。耐寒オリエンテーリングでは毎年保護者の皆さんがおいしい豚汁とフランクフルトをごちそうして下さいます。保護者の皆さんは何カ月前から、前日手伝っていただけるメンバーや、当日来ただけるメンバーなどを募り、食材の買い出しからトラックやプロパンガスの手配までして下さいました。本当に有難うございました。校長会などで他校の先生に言いま

すと、そんな学校に協力的な PTA がある本校をうらやましがられていました。プロパンガスは後援会の早川さんが、食材運搬は同窓生の北田さんに協力していただきました。本当に有難うございました。大変おいしい豚汁とフランクフルトとみかんを頂きました。生徒はもちろん先生も感謝しています。

実は 11 月の入試説明会でこの耐寒オリエンテーリングの事を次のようにお話しました。



『12 月に行う行事です。山の中で行うスタンプラリーをイメージしてください。学年を縦割りにした、3 年生 2 人・2 年生 2 人・1 年生 2 人が 1 つのチームとなり、地図と方位磁石(コンパス)を使ってグレンデに設置したポイントをとりに行くと言う行事です。時間差でスタートするとき、ポイントを書いた地図が配られます。そこで初めてどのポイントから順番に回るかを決めます。

三年生は一年生や二年生の体力に配慮しながら、走るスピード・休憩時間なども決めていきます。以前は疲れた一年生を休憩させて、三年生が山の中を走ってポイントを取りに行くこともありましたが、今は禁止です。チーム全員が励まし合って助け合って行うスポーツです。

三年生は本当に良くチームをまとめて引っ張ってくれています。卒業した先輩から引き継がれた伝統のように思います。

二年生はそんな三年生を目標にしているようです。三年生が一年生のリュックを持ってあげている姿や、一年生に「良く頑張った」と褒めている姿を良く見ます。

又、保護者の方が昼食場所で豚汁やフランクフルトなどを作って生徒たちに振る舞ってくださいます。寒いところなので生徒達も感謝しながらおいしく頂いています。今年は私市府民の森 周辺で行ないます。ただ山を歩く遠足ではなく、目標設定・チーム作り・思いやりの心やわがまを抑える我慢できる心の育成、そして家族や上級生に支えてもらっている事への感謝の気持ちなど多くの事を自然に学んで行ったと思います。

実を言いますと、この様な行事は先生方も大変です。前もつての下見、生徒が通る可能性のある道は全て下見をします。これより先に行つてはダメな場所には先生は生徒全員がゴールするまで待機します。男女別のポイントの設置や危険な場所への立札などの設置、パトロールなど生徒の安全には万全を期しています。』

今年の生徒たちの様子を見ていて、以前にもまして素晴らしい生徒に育っていることを実感し、感激しました。下級生を思いやる気持ちが自然に言葉や態度に溢れた清々しい行事に身を置くことができ幸せでした。体力不足で歩くことが出来なくなった下級生を休ませるために本部に来たチームがありました。3 年生が 1 年生をずっと背中におんぶして移動していたようです。しばらく休憩して再出発していきましたが、勿論 1 年生のリュックはチーム員が当たり前のように持ってあげていました。このチームは優勝に匹敵するか、それ以上に素晴らしいチームだと私は感激しました。先生の知らないところで、このようなチームはたくさんあると思います。



(下見の様子です)



(ありがとうございます)



(お代わりありますか)

## ちょっと一言

『反抗期』は自立する練習の時期です。

親には反抗と思えても、子供にとっては自立への**大事なステップ**です。子供の自立に向けての成長だと喜ぶ気持ちを持つことが大切です。そしていきなり怒らないで子供がなぜ反抗しているのか**理由**をきちんと聞いてあげることです。子供と一緒に考えて、どうすることがいいのか判断して納得させることです。「我慢する力」をつけさせることも必要です。反抗期には**自立心**の他に**自己中心的なわがまま**があります。子供のわがままを許し続けると自立出来ない子供になります。携帯やゲームなどから抜け出せない自分の欲望を**コントロールできない人間**になってしまいます。**躰け**とは自分を上手に**コントロール**できる仕方を教えることが基本になります。全ての基本は**親の愛情**が子供に伝わっているかです。伝えることが大切です。良く「**甘やかす**」と「**甘えさせる**」を混同する場合があります。「甘やかす」は子供の言いなりになったり、親が満足するためにすることです。「**甘えさせる**」は子供が親の心・愛情を**欲している**時に**親の心**を与えることです。**話を聞いてあげたり・スキンシップ**をしてあげたり・**本気で叱って**あげたり、子供に**寄り添って**あげることです。決して物やお金を与える事ではありません。お父さんやお母さんもお休みのお正月には本音でお話をしたりして心の絆を深めてはいかがでしょうか。親子や夫婦であっても会話がないと意志の疎通は出来ていないものです。

## 薬物乱用防止講座 平成 25 年 12 月 11 日 (水)

講師 高橋 義信 氏 (大阪府麻薬中毒者相談員・薬物乱用防止指導員)

**違法薬物の怖さ**や**誘惑の手口**などを知り、薬物に近づかない心を育む教育として毎年実施しています。大切な一生を自分でダメにしてしまうことの無いようにする非常に重要な教育です。真面目な会社員が一瞬の心の隙を突かれ、覚せい剤におぼれて自殺してしまうまでの DVD を鑑賞し、薬物の**恐ろしさ**と**防御の大切さ**を教えてもらいました。残念ですが言葉巧みに罠を仕掛けてくる悪人が世の中にも認知する必要があります。また、絵本 (いのちのまつり) で人はお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんと**繋がって**おり、**自分ひとりの命**ではないことを代表生徒の読み聞かせで学びました。本当に心に訴える上手な読み聞かせでした。講師の高橋さんも感心されていました。

私は皆さんが**想像力**と**意志の力**を今のうちに養うことが大切だと感じました。

先が読める人 ○こんなことをしたら将来どうなるか (薬物乱用・携帯の悪用など)

○今、これを頑張れば将来どのようになれるのか (心の鍛錬・勉強に勤しむなど)

意思の強い人 (我慢できる人)

○興味はあっても、やってはいけないことはしない人。誘惑に負けない人

○しなければいけないことが出来る人。(勉強しなければいけない時にはするなど)

先が読めたり、我慢できる心を若いときに当たり前のこととして身につける必要があると思います。一流大学を卒業しても、とても心の貧しい人は多くいます。



## 全国納税貯蓄組合連合会優秀賞 入選作文

2年S組 谷口仁義くんが税の作文で全国納税貯蓄組合連合会優秀賞を受賞しました。

門真税務署にて谷口君が優秀作文の朗読を披露いたしました。おめでとうございます。



### 「妹と税金」

2年S組 谷口仁義

ぼくの妹は、今年の七月十五日に亡くなりました。十歳で小学校四年生でした。お葬式には百人の同級生が全員来てくれました。大人も同じくらいたくさんの方が来てくれました。妹はたくさんの人に大切にされていたのだと思いました。

妹は小腸の病気で食べ物の消化吸収ができませんでした。産まれて次の日に大学の付属病院で手術をしました。人口肛門をつけて中心静脈栄養のための管を胸に埋め込みました。僕はその時三歳でした。母はずっと妹に付き添って家にいませんでした。父が家のことをしてくれました。その時のことはほとんど覚えていません。

妹は三歳で地域の保育所に入ることができました。小学校も地域の学校に通いました。

朝は母が導尿をして、人口肛門の袋を処理して、薬を入れていました。父が車いすの妹を小学校に送って行きました。父は四週間に一回大学病院に連れて行き、二週間に一回リハビリの病院に連れて行っていました。

税の作文を書くのに母に相談したら「良かったね。芽生ちゃんのことを書けるね。」と言いました。

妹が生まれてすぐに受けた手術には何百万円も費用がかかります。けれど、税金のおかげで無料でした。

もしお金が必要でもうちの両親は「お金を借りてでも手術をしたらどう。」と言っていました。お金を借りるところがなかったら手術ができません。手術ができないと死んでしまいます。税金のおかげでお金がなくても命が助かるのです。「手術だけなら何とかなくてもそれから後が大変だった。毎日の生活を支えてもらっていた。」と母が言いました。朝のケア用品は病院から無料でもらえました。薬や栄養の点滴バック、接続チューブ、消毒用セットも税金のおかげで無料です。病院の費用は一ヶ月で一病院二回まで五百円ずつ支払います。

妹は大学病院で亡くなったので、病理解剖という選択肢があります。医者は「もうこれまでに痛いおもいをずっとしてきたので、止めてくださいというご両親もいます。解剖はしなくてもいいことです。」と言ってくれたのですが、「最後に娘が知らない誰かのために役に立つことができるというのは、嬉しいことです」と両親が決めました。妹は知らないたくさんの人に支えてもらって生きてきました。

ぼくは知らない誰かのためになる税金を納めようと思います。

ご両親の子供に対する無限の愛情を仁義君が感じ取っていることが痛いほどわかります。

そして、税の作文を書くのに母に相談したら「良かったね。芽生ちゃんのことを書けるね。」と話されたとあります。本当に素晴らしいお母さんだと思います。芽生ちゃんの「生きてきた力」がお母さんをお父さんを仁義君をこんなに素晴らしく成長させたのだと思います。そして、周りの人々に感動と勇気を与えたからこそ御葬儀に多くの参列者が来られたのだと思います。

仁義君の作文は私たちが何百年生きても与えられない「感動と勇気」を芽生ちゃんの「生きてきた力」で、より多くの人たちに与えることになると思います。心が洗われる素晴らしい作文をありがとう。